

## 第10回 企業部会幹事会 開催

2025年2月14日（金）13:00～15:00帝国ホテルにて第10回企業部会幹事会を開催しました。

キリンビール株式会社 代表取締役社長の堀口議長進行の下、各委員会の進捗報告および「広報強化」、「中四国生団連進捗報告」、「政策検討チーム 取り組む背景と方向性」について議論を行いました。



▲会場の様子

### 議 題

議題 1 …全体報告

議題 2 …有事における国民的危機への対応  
委員会新設について

議題 3 …広報強化 今後の方針について

議題 4 …中四国生団連 進捗報告

議題 5 …政策検討チーム 取り組む背景と方向性



▲堀口議長

（キリンビール株式会社 代表取締役社長）

#### 【堀口議長ご挨拶（要旨）】

- ・能登半島地震から1年が経過した。生団連は、セカンドハーベスト・ジャパンからの食品提供支援要請を受け、多くの会員企業にご支援をいただいた。感謝申し上げる。
- ・国内外の不安定な情勢により国民の不安が高まっている。生団連として未来のより良い暮らしを描き、声を上げ続ける必要性を感じている。
- ・2月20日には中四国生団連が発足する。国民視点での活発な議論と意見の集約を通じて、地方自治体に対しても強く意見を発信できる組織作りを目指す。
- ・生団連の課題について役員企業からの忌憚のない意見をいただき、今後の方針に反映させていく。

#### 【出席者のご意見（一部抜粋）】

- ・（有事における国民的危機への対応 委員会新設について）

民間が参加しやすい防災に焦点を当て、政府や各部署が動きやすい形を民間の立場から考え提言する活動が取り組みやすいと考える。

- ・（広報強化 今後の方針について）

地域で行われている活動を生団連全体で繋ぎ、発信することが重要である。例えば、防災活動や復興計画では、地域住民や企業が積極的に関与し、行政の遅れを補うために自ら行動していることが多い。そのような事例を繋ぎ、地域に広報していくことが必要であると考えます。

- ・（政策検討チーム 取り組む背景と方向性）

20年後の理想的な日本の姿を考える際、将来どんな世の中になったときのありたい姿を考えるのか、ということをもう少し掘り下げる必要がある。日本全体のフレームワークがどんな形か、一定程度イメージを共有した上で議論が必要である。